

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大谷大学
設置者名	真宗大谷学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	真宗学科 ³	夜・通信	137		20	157	13	
	仏教学科 ³	夜・通信	139		6	145	13	
	哲学科 ³	夜・通信	145		0	145	13	
	歴史学科 ³	夜・通信	139		6	145	13	
	文学科 ³	夜・通信	139		6	145	13	
	社会学科（現代社会学コース） ¹	夜・通信	137		6	143	13	
	社会学科（地域政策学コース） ¹	夜・通信	125		24	149	13	
	社会学科（社会福祉学コース） ¹	夜・通信	121		44	165	13	
	国際文化学科 ^{1・3}	夜・通信	145		2	147	13	
	人文情報学科 ¹	夜・通信	125		12	137	13	
	教育・心理学科 ¹	夜・通信	129		111	240	13	
社会学部	現代社会学科	夜・通信	125		14	139	13	
	コミュニティデザイン学科（地域政策学コース）	夜・通信	113		92	205	13	
	コミュニティデザイン学科（社会福祉学コース）	夜・通信	113		89	202	13	

教育学部	教育学科（初等教育コース）	夜・通信	129		153	282	13	
	教育学科（幼児教育コース）	夜・通信	143		46	189	13	
国際学部 ²	国際文化学科	夜・通信	129		2	131	13	
<p>（備考）</p> <p>学科名¹ 募集停止学科</p> <p>学部名² 未完成学部</p> <p>学科名³ 単位数は新旧課程を合算して計上している。なお、カリキュラム改編に伴い科目区分の変更が生じた科目は、2018年度以降の新カリキュラムにあわせて計上している。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.otani.ac.jp/study_support/nab3mq000006kejl.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大谷大学
設置者名	真宗大谷学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.otani.ac.jp/sinsyu_gakuen/nab3mq000004umn.html ※例年変更が生じた場合にのみ、データを更新している。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	真宗大谷学園専務理事	2017/10/24 ～ 2023/10/23	理事長の命を受け、この法人の業務を掌理する。
非常勤	真宗大谷派参務 真宗大谷学園常務理事	2020/1/7 ～役職期間	専務理事を補佐し、この法人の業務を分掌する。
非常勤	真宗大谷派参務 真宗大谷学園財務理事	2020/1/7 ～役職期間	専務理事を補佐し、この法人の財務を掌理する。
非常勤	真宗大谷派宗議会議長	2017/10/11 ～役職期間	真宗大谷派僧侶を代表して法人運営に参画する。
非常勤	真宗大谷派参議会議長	2018/06/01 ～役職期間	真宗大谷派門徒を代表して法人運営に参画する。
非常勤	社会福祉法人千草会理事長	2017/10/24 ～ 2023/10/23	社会福祉の専門家の観点から法人運営に参画する。
非常勤	公認会計士	2017/10/24 ～ 2023/10/23	会計の専門家として法人の公正な事業活動を推進する。
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大谷大学
設置者名	真宗大谷学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では全学部共通で、例年 11 月下旬に次年度授業担当者に向けてシラバス作成の依頼を行い、教育課程における科目の位置づけや目的とシラバスの記載内容に齟齬がないか第三者による確認を行ったうえで、3 月下旬に本学ホームページで広く一般に、また、在学生へは履修登録時、授業期間中にも都度確認ができるよう LMS 内でも閲覧可能としている。</p> <p>シラバスは、「授業種別(講義・演習等)」、「授業テーマ」、「授業概要」、「学習到達目標」、「身につく力(DP との関連)」、「成績評価方法(課題に対するフィードバック方法含む)」、「教科書・参考書等」、「授業計画(各回の学習内容・授業方法・準備学習(予習・復習)・時間)」、「質問・相談の方法」、「担当者からの連絡」の項目から成る共通フォーマットを全ての科目で使用しており、学生が閲覧しやすく、内容を理解しやすいよう工夫を凝らしている。また、実践的教育を行う科目において、実務経験を有する教員が授業を担当する場合には、実務経験の詳細とその経験を活かしてどのような教育を行うかを明記するよう入力要項や注意事項に記載し、周知を行っている。加えて、専任教員を対象とし、「シラバスの作成方法」を内容とした FD 研修会をシラバス作成期間前に開催している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>https://unipa.otani.ac.jp/up/faces/login/Com00501A.jsp ※「OTANI UNIVERSITY UNIVERSAL PASSPORT」トップ画面 URL アクセス後、「ゲストユーザー」を、その後「シラバス照会」をクリック</p>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスに「成績評価方法」という項目を設け、入力必須項目としている。そのため、共通フォーマットで全ての科目において成績評価方法・基準を記載し、学生へ公表している。「成績評価方法」は、平常点・授業内試験・定期試験・レポート・その他に分けて、それぞれに割合(%)と評価基準を記入できるようにしている。シラバスに記載された成績評価方法や基準に則り、各授業科目において成績評価を行い、基準に到達したものに単位を授与している。</p> <p>また、大学として共通の成績評価基準を以下のとおり設定しており、学生・教員に対しては、『履修要項』や大学ホームページにおいて公表している。教員へは、加えて各セメスターの成績入力依頼時に、あらためて評価基準を明記した文書を配布している。</p> <p><成績評価基準></p> <p>S=100～90点 (特に優れた成績を示したものの)</p> <p>A= 89～80点 (優れた成績を示したものの)</p> <p>B= 79～70点 (妥当と認められる成績を示したものの)</p> <p>C= 69～60点 (合格と認められる最低限の成績を示したものの)</p> <p>F= 59点以下 (合格と認められるに足る成績を示さなかったものの)</p> <p>K= — (授業参加や試験について棄権・放棄をしたとみなされ、評価することができないもの)</p> <p>※S～C=合格、F=不合格、K=評価不能</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、学生が自身の学業結果を総合的に判断できるよう、また教職員が学生の履修指導に役立てられるようGPA制度を導入している。近年は、GPAを学内独自奨学金の出願資格や選考、履修上限単位数の基準や科目受講の成績水準、退学勧告にも利用する等、活用の場を広げている。</p> <p>GPAの算出にあたっては、あらかじめ設定した方法に則り、「S・A・B・C・F・K」の評価を一定の数値に換算(S=4、A=3、B=2、C=1、F・K=0)し、F・Kも含めた平均を算出している。なお、卒業所要に含まれない資格取得にのみ必要な科目や、指定の期間内に履修を取り止めた科目、留学・単位互換制度等による認定された科目は、GPAの算出から除外している。</p> <p>算出方法やGPAの活用方法については、新入生に配付する『履修要項』に明記するとともに、新入生だけでなく在学生や学外者に向けても大学ホームページと学内者向けシステムで閲覧できるようにしている。</p> <p>GPAの分布状況については、セメスター毎に在学生全てのその時点のトータルGPAを確認している。具体的には、全学では0.5きざみのヒストグラム、学部・学科・学年ごとには箱ひげ図、それぞれに基本統計量を加えた分布状況一覧をセメスター毎に作成し、大学運営会議・各種委員会・各学部学科において分布状況を確認している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.otani.ac.jp/faculty/yokou.html (2021『履修要項』学部・大学院【2021入学用】pp.113-114) ／『履修要項』(教務課窓口で配布)</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、卒業認定・学位授与の方針において、学部ごとに卒業時に学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を6つないし5つ定めており、『履修要項』や大学ホームページで公表している。また、DPに定めた能力を身につけるために、3つの科目群を基盤とした教育課程をもうけ、どの科目群でどの能力が特に身につくのかを教育課程編成・実施の方針や個別科目のシラバスにおいて明示している。それらの能力が卒業時に身につけているかについては、学部・学科ごとに編成する教育課程における所定単位の修得をもって達成したものとみなしているが、本学の学びの集大成と位置付けている卒業論文・卒業研究におけるルーブリック評価や、学修行動調査によっても修得状況を明らかにしている。加えて、学修成果の評価の方針に沿って、DPに定める卒業時に身につけるべき能力の修得状況を段階的に評価している。</p> <p>また、方針の内容や、本学の取り組みが方針に沿ったものであるかを検証、社会におけるニーズを確認するため、毎年第三者を招いた意見聴取会を開催し、検証・改善の一助としている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>【学位授与方針／教育課程の編成・実施方針】</p> <p>https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000003cork.pdf (17年度以前入学生)</p> <p>https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000005rjt6.pdf (18年度以降入学生)</p> <p>https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000008buxg.pdf (21年度以降入学生)</p> <p>【学修成果の評価の方針】</p> <p>https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000006f3o5.pdf／『履修要項』(教務課窓口で配布)</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大谷大学
設置者名	真宗大谷学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.otani.ac.jp/sinsyu_gakuen/nab3mq000008hzv1.html
収支計算書又は 損益計算書	https://www.otani.ac.jp/sinsyu_gakuen/nab3mq000008hzv1.html
財産目録	https://www.otani.ac.jp/sinsyu_gakuen/nab3mq000008hzv1.html
事業報告書	https://www.otani.ac.jp/sinsyu_gakuen/nab3mq000008hzv1.html
監事による 監査報告(書)	https://www.otani.ac.jp/sinsyu_gakuen/nab3mq000008hzv1.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:) 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: グランドデザイン 対象年度: 2012年度-2021年度)
公表方法: https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000001mdxn.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2al.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/index.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部 (21 年度以降)
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq0000000zuw-att/nab3mq000008bga5.pdf)
(概要) 本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献することを目的としている。目的を達成するため、人物の養成に関する目的と教育研究上の目的を、学部・学科ごとに定めている。文学部は以下のとおりである。 文学部は、歴史の中で蓄積されてきた多様な文化的所産に学ぶことを通して、人間と世界に関わる根本的な問題を解明し、深く自己を洞察しつつ現代社会を主体的に生きることのできる人物の養成をめざす。 ア 真宗学科は、釈尊の教説や親鸞の著作などに依り、自己を問い、人間を問うとともに、親鸞思想とその思想的背景の研究を進め、仏教精神に基づく豊かな人物の養成をめざす。 イ 仏教学科は、仏教の専門的な知見を通して深く人間を理解し、現代社会のさまざまな問題の根底に存在する課題を見抜いて、他とともに生きようとする人物の養成をめざす。 ウ 哲学科は、人間や世界にかかわる根本的な問題を東西の思想伝統を踏まえつつ考究し、多様かつ柔軟な視点と論理的思考力を培い、現代の諸問題に対処することのできる人物の養成をめざす。 エ 歴史学科は、日本と世界の歴史及びそれと不可分な諸宗教・思想、とくに仏教を対象とした歴史学研究を通じて、現代社会で直面するさまざまな課題を多角的かつ的確に分析し、それに対処しうる人物の養成をめざす。 オ 文学科は、日本と中国の言葉や文学を研究対象とし、テキストの精読・分析・創出を通して言語感覚の錬磨と多様な知識の修得に励み、人間と社会への理解力及び洞察力を持った人物の養成をめざす。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000008buxg.pdf)
(概要) 本学では、学部ごとに卒業時に学生が身につけるべき能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定単位の修得をもって教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。文学部における卒業時に身につけておくべき能力は以下のとおりである。 (DP1) 外国語を使用して、基礎レベルでの読解、会話、表現ができる。〔技能・表現〕 (DP2) 日本語を使用して、正確に読解し、論理的に表現し、的確に議論することができる。〔技能・表現〕 (DP3) 人間・社会・自然環境について、幅広い知識・知見を身につけている。〔知識・理解〕 (DP4) 人間・社会・自然環境に関して問題を見だし、課題を設定しようとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕 (DP5) 人文諸科学の幅広い知識を用いて、人間・社会・自然環境の諸相を分析することができる。〔思考・判断〕 (DP6) 自己と他者への理解を深めながら、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。〔態度〕

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000008buxg.pdf）</p>
<p>（概要） 本学では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下に示す3つの科目群（共通基礎、学科専門、現代総合）を基盤とした教育課程をもうけ、各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎および○で示す。（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習等適切な方法により実施する。（自由科目は、現代総合科目および自己選択科目をいう。）</p> <p><共通基礎科目> 教育目標を達成するための根幹をなす科目を各専門共通の基礎科目として開講し、ブツダと親鸞の基本思想を通して人間について考える「人間学」、高校までの学びから大学の学びへの転換と専門への接続をはかる「導入科目」、およびグローバル化時代の共通言語である英語をはじめ、様々な言語を学びながら文化の多様性に触れる「外国語」を置く。</p> <p><学科専門科目> 各学科、コースごとの専門的な学びを修得するための科目を学科専門科目として開講し、専門の体系的理解を促す講義や、知的探究心を呼び起こす実践研究等の科目を置くとともに、自らの課題を専門分野の視点から問い直し、発表と議論を通して研究を深める演習の科目を置き、これらの学びをふまえて卒業研究の作成を目指す。</p> <p><現代総合科目> 専門分野の補完や幅広い現代教養（キャリア形成・自然生命・歴史文化）のための科目を現代総合科目として開講し、各自の興味や関心にあわせ、3つの系ごとに自由に科目を選択して学習する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： ①大学ホームページ https://www.otani.ac.jp/nyushi/nab3mq000008liqb.html ②2022年度入学試験要項／入試資料 *大学ホームページ「資料請求フォーム」より請求可能 https://www.otani.ac.jp/nab3mq000000khsr.html</p>
<p>（概要） 文学部の「教育目標（人物養成上の目的）」を達成するため、求める人物像や高校までに身に付けておいてほしい力を「入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」として定めている。アドミッション・ポリシーは、具体的に4つ（AP1～4）の項目を定め、それらを各入学（試験）制度と対応させることにより、求める能力を入試制度ごとに明確にしている。さらに、文学部各学科においては、教育目標（人物養成上の目的）とアドミッション・ポリシーに基づいて、「学科の目標・学科が求める学生像」をそれぞれ定め、各学科がどのような人物を養成したいか、またそういった人物を養成するため、どのような能力や関心をもつ学生を求めるのかを具体的に明らかにしている。</p> <p>文学部では、次のような人を求め、受入れる。</p> <p>（AP1）高等学校で履修する国語、地歴・公民、数学、外国語などについて、高等学校卒業相当の知識をもつ。〔知識・理解〕</p> <p>（AP2）物事をじっくり時間をかけて考察し、自分の考えをまとめることができる。〔思考・判断〕</p> <p>（AP3）人間や人間をとりまく事柄について、自発的な関心から思索しようとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕</p> <p>（AP4）日本語を使用して、自分の考えを的確に表現することができる。〔技能・表現〕</p>

<p>学部等名 文学部 (20年度以前)</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法： https://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq0000012h9b.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献することを目的としている。目的を達成するため、人物の養成に関する目的と教育研究上の目的を、学部・学科ごとに定めている。文学部は以下のとおりである。</p> <p>文学部は、歴史の中で蓄積されてきた多様な文化的所産に学ぶことを通して、人間と世界に関わる根本的な問題を解明し、深く自己を洞察しつつ現代社会を主体的に生きることのできる人物の養成をめざす。</p> <p>ア 真宗学科は、釈尊の教説や親鸞の著作などに依り、自己を問い、人間を問うとともに、親鸞思想とその思想的背景の研究を進め、仏教精神に基づく豊かな人物の養成をめざす。</p> <p>イ 仏教学科は、仏教の専門的な知見を通して深く人間を理解し、現代社会のさまざまな問題の根底に存在する課題を見抜いて、他とともに生きようとする人物の養成をめざす。</p> <p>ウ 哲学科は、人間や世界にかかわる根本的な問題を東西の思想伝統を踏まえつつ考究し、多様かつ柔軟な視点と論理的思考力を培い、現代の諸問題に対処することのできる人物の養成をめざす。</p> <p>エ 歴史学科は、日本と世界の歴史及びそれと不可分な諸宗教・思想、とくに仏教を対象とした歴史学研究を通じて、現代社会で直面するさまざまな課題を多角的かつ的確に分析し、それに対処しうる人物の養成をめざす。</p> <p>オ 文学科は、日本と中国の言葉や文学を研究対象とし、テキストの精読・分析・創出を通して言語感覚の錬磨と多様な知識の修得に励み、人間と社会への理解力及び洞察力を持った人物の養成をめざす。</p> <p>カ 国際文化学科は、欧米とアジアの文化事象を広く研究対象とし、異文化・自文化理解を通して幅広い視野と柔軟かつ論理的な思考力を培い、国際コミュニケーション力を備えた人物の養成をめざす。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000005rjt6.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学では、学部ごとに卒業時に学生が身につけるべき能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定単位の修得をもって教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。文学部における卒業時に身につけておくべき能力は以下のとおりである。</p> <p>(DP1) 外国語を使用して、基礎レベルでの読解、会話、表現ができる。〔技能・表現〕</p> <p>(DP2) 日本語を使用して、正確に読解し、論理的に表現し、的確に議論することができる。〔技能・表現〕</p> <p>(DP3) 人間・社会・自然環境について、幅広い知識・知見を身につけている。〔知識・理解〕</p> <p>(DP4) 人間・社会・自然環境に関して問題を見だし、課題を設定しようとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕</p> <p>(DP5) 人文諸科学の幅広い知識を用いて、人間・社会・自然環境の諸相を分析することができる。〔思考・判断〕</p> <p>(DP6) 自己と他者への理解を深めながら、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。〔態度〕</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000005rjt6.pdf>）

（概要）

本学では、「学位授与方針」に定められた能力を身につけるために、以下に示す3つの科目群（共通基礎、学科専門、現代総合）を基盤とした教育課程をもうけ、各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎および○で示す。（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習等適切な方法により実施する。（自由科目は、現代総合科目および自己選択科目をいう。）

<共通基礎科目>

教育目標を達成するための根幹をなす科目を各専門共通の基礎科目として開講し、ブツダと親鸞の基本思想を通して人間について考える「人間学」、高校までの学びから大学の学びへの転換と専門への接続をはかる「導入科目」、およびグローバル化時代の共通言語である英語をはじめ、様々な言語を学びながら文化の多様性に触れる「外国語」を置く。

<学科専門科目>

各学科、コースごとの専門的な学びを修得するための科目を学科専門科目として開講し、専門の体系的理解を促す講義や、知的探究心を呼び起こす実践研究等の科目を置くとともに、自らの課題を専門分野の視点から問い直し、発表と議論を通して研究を深める演習の科目を置き、これらの学びをふまえて卒業研究の作成を目指す。

<現代総合科目>

専門分野の補完や幅広い現代教養（キャリア形成・自然生命・歴史文化）のための科目を現代総合科目として開講し、各自の興味や関心にあわせ、3つの系ごとに自由に科目を選択して学習する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：2020年度『入学試験要項』及び『入試資料』）

（概要）

文学部の「教育目標（人物養成上の目的）」を達成するため、求める人物像や高校までに身に付けておいてほしい力を「学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）」として定めている。アドミッション・ポリシーは、具体的に4つ（AP1～4）の項目を定め、それらを各入学（試験）制度と対応させることにより、求める能力を入試制度ごとに明確にしている。さらに、文学部各学科においては、教育目標（人物養成上の目的）とアドミッション・ポリシーに基づいて、「学科の目標・学科が求める学生像」をそれぞれ定め、各学科がどのような人物を育成したいか、またそういった人物を育成するため、どのような能力や関心をもつ学生を求めるのかを具体的に明らかにしている。

文学部では、次のような人を求め、受け入れる。

- (AP1) 高等学校で履修する国語、地歴・公民、数学、外国語などについて、高等学校卒業相当の知識をもつ。〔知識・理解〕
- (AP2) 物事をじっくり時間をかけて考察し、自分の考えをまとめることができる。〔思考・判断〕
- (AP3) 人間や人間をとりまく事柄について、自発的な関心から思索しようとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕
- (AP4) 日本語を使用して、自分の考えを的確に表現することができる。〔技能・表現〕

<p>学部等名 文学部 (17年度以前)</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq0000012isx-att/nab3mq0000012ivw.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献することを目的としている。目的を達成するため、人物の養成に関する目的と教育研究上の目的を、学部・学科ごとに定めている。文学部は以下のとおりである。</p> <p>文学部は、歴史の中で蓄積されてきた多様な文化的所産に学ぶことを通して、人間と世界に関わる根本的な問題を解明し、深く自己を洞察しつつ現代社会を主体的に生きることのできる人物の養成をめざす。</p> <p>ア 真宗学科は、釈尊の教説や親鸞の著作などに依り、自己を問い、人間を問うとともに、親鸞思想とその思想的背景の研究を進め、仏教精神に基づく豊かな人物の養成をめざす。</p> <p>イ 仏教学科は、仏教の専門的な知見を通して深く人間を理解し、現代社会のさまざまな問題の根底に存在する課題を見抜いて、他とともに生きようとする人物の養成をめざす。</p> <p>ウ 哲学科は、人間や世界にかかわる根本的な問題を東西の思想伝統を踏まえつつ考究し、多様かつ柔軟な視点と論理的思考力を培い、現代の諸問題に対処することのできる人物の養成をめざす。</p> <p>エ 社会学科は、社会的存在としての人間の特質・問題・可能性についての知見を求め、自らの課題の発見・探究とその成果の表現・共有に取り組む学習を通じて、現代社会を心豊かに生きる人物の養成をめざす。</p> <p>オ 歴史学科は、日本を含む東アジアの歴史及びそれと不可分な仏教など諸宗教・思想を対象とした歴史学研究を通じて、現代社会で直面するさまざまな課題を多角的かつ的確に分析し、それに対処しうる人物の養成をめざす。</p> <p>カ 文学科は、東洋・西洋の文学を研究対象とし、テキストの精読・分析を通して詩的象徴世界を解明し、人間と社会への理解力及び、洞察力を持った人物の養成をめざす。</p> <p>キ 国際文化学科は、地域対象の「地域文化研究」、比較文化的手法を発展させた「異文化・自文化理解」、外国語運用能力を含めた「コミュニケーション力」を核とした教育を行うことによって、国際人としての人物の養成をめざす。</p> <p>ク 人文情報学科は、情報処理の技術の習得を前提としながらも、その先に情報を受け取る側の人間について深い理解と共感を持って情報をデザインしていけるような、文系と理系の間架け橋となる人物の養成をめざす。</p> <p>ケ 教育・心理学科は、いのちを尊ぶ宗教的情操を涵養するとともに、教育・心理に関する専門的な知見を身につけ、幼児・児童の教育において、豊かな人間理解の態度と能力を備えた人物の養成をめざす。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000003cork.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部では、卒業時に学生が身につけるべき下記の6つの能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定単位の修得をもって教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。</p> <p>(DP1) 外国語を使用して、基礎レベルでの読解、会話、表現ができる。〔技能・表現〕</p> <p>(DP2) 日本語を使用して、正確に読解し、論理的に表現し、的確に議論することができる。〔技能・表現〕</p> <p>(DP3) 人間・社会・自然環境について、幅広い知識・知見を身につけている。〔知識・理解〕</p> <p>(DP4) 人間・社会・自然環境に関して問題を見だし、課題を設定しようとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕</p>

- (DP5) 人文諸科学の幅広い知識を用いて、人間・社会・自然環境の諸相を分析することができる。〔思考・判断〕
- (DP6) 自己と他者への理解を深めながら、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。〔態度〕

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000003cork.pdf>）

（概要）

文学部（全学科共通）では、「学位授与方針」に定められた6つの能力を身につけるために、以下に示す3つの科目群（共通基礎、学科専門、現代総合）を基盤とした教育課程をもうけ、各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎および○で示す。（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習等適切な方法により実施する。（自由科目は、現代総合科目および自己選択科目をいう。）

<共通基礎科目>

教育目標を達成するための根幹をなす科目を各専門共通の基礎科目として開講し、ブッダと親鸞の基本思想を通して人間について考える「人間学」、高校までの学びから大学の学びへの転換と専門への接続をはかる「導入科目」、およびグローバル化時代の共通言語である英語をはじめ、様々な言語を学びながら文化の多様性に触れる「外国語」を置く。

<学科専門科目>

各学科、コースごとの専門的な学びを修得するための科目を学科専門科目として開講し、専門の体系的理解を促す講義や、知的探究心を呼び起こす実践研究等の科目を置くとともに、自らの課題を専門分野の視点から問い直し、発表と議論を通して研究を深める演習の科目を置き、これらの学びをふまえて卒業論文の作成を目指す。

<現代総合科目>

専門分野の補完や幅広い現代教養（コミュニケーション、キャリア形成・自然生命・歴史文化）のための科目を現代総合科目として開講し、各自の興味や関心にあわせ、4つの系ごとに自由に科目を選択して学習する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：2017年度『入学試験要項』及び『入試資料』）

（概要）

文学部の「教育目標（人物養成上の目的）」を達成するため、求める人物像や高校までに身に付けておいてほしい力を「学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）」として定めている。アドミッション・ポリシーは、具体的に4つ（AP1～4）の項目を定め、それらを各入学（試験）制度と対応させることにより、求める能力を入試制度ごとに明確にしている。さらに、文学部各学科においては、教育目標（人物養成上の目的）とアドミッション・ポリシーに基づいて、「学科の目標・学科が求める学生像」をそれぞれ定め、各学科がどのような人物を育成したいか、またそういった人物を育成するため、どのような能力や関心をもつ学生を求めるのかを具体的に明らかにしている。

文学部では、次のような人を求め、受け入れる。

- (AP1) 高等学校で履修する国語、地歴・公民、数学、外国語などについて、高等学校卒業相当の知識をもつ。〔知識・理解〕
- (AP2) 物事をじっくり時間をかけて考察し、自分の考えをまとめることができる。〔思考・判断〕
- (AP3) 人間や人間をとりまく事柄について、自発的な関心から思索しようとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕
- (AP4) 日本語を使用して、自分の考えを的確に表現することができる。〔技能・表現〕

学部等名 社会学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq000005todn.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献することを目的としている。目的を達成するため、人物の養成に関する目的と教育研究上の目的を、学部・学科ごとに定めている。社会学部は以下のとおりである。</p> <p>社会学部は、現代社会の諸課題に向き合うことを通して、地域社会など身近な場において、異なる他者と敬い合いながら生きることのできる世界を構築する構想力と実践力を身につけた人物の養成をめざす。</p> <p>ア 現代社会学科は、現代の多様な社会文化事象を対象に、社会学と関連学問の視点と方法に基づく主体的探究学修を進めることを通じて、現代社会の特性と自らの立ち位置を的確に把握し、人々の間でビジョンとルールを提案・交渉することができる人物の養成をめざす。</p> <p>イ コミュニティデザイン学科は、身近な地域コミュニティで生起する諸課題に対して、「人と人をつなぐ」実践手法を進めることにより、広い領域内容から「コミュニティ」のこれからの「デザイン」していく理論とスキルを身につけた人物の養成をめざす。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000008buxg.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>本学では、学部ごとに卒業時に学生が身につけるべき能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定単位の修得をもって教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。社会学部における卒業時に身につけておくべき能力は以下のとおりである。</p> <p>(DP1) 地域社会に関するさまざまな専門知識に加え、政治や経済、行政機構や経営、情報技術、法律などの専門知識について、地域での実践との関わりのなかで総合的に理解している。〔知識・理解〕</p> <p>(DP2) 実践活動を行っていく上で必要とされるコーディネーション力やファシリテーション力、マネジメント力、情報技術を活用した情報発信のスキルや統計処理といった技能や技術を身につけている。〔技能・表現〕</p> <p>(DP3) 地域社会に関する理論と現場理解を基盤に、多面的な視野から状況を判断し、地域が抱える問題の本質を見抜くことができる。また、論理的、創造的にものごとを考え、具体的な問題解決策を提案できる。〔創造的思考・判断〕</p> <p>(DP4) 地域社会における諸問題に関して、仏教的「相互敬愛」の精神から解決に向けた課題を設定し、その検証に積極的に取り組もうとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕</p> <p>(DP5) 自己と他者への理解を深めながら、主体的にさまざまな問題解決に取り組み、人間・社会・自然環境に関して協調の方途を見いだし、課題を設定しようとする意欲をもつ。〔態度・関心・意欲〕</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000008buxg.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>本学では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下に示す3つの科目群（共通基礎、学科専門、現代総合）を基盤とした教育課程をもうけ、各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎および○で示す。（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習等適切な方法により実施する。（自由科目は、現代総合科目および自己選択科目をいう。）</p> <p><共通基礎科目></p>

教育目標を達成するための根幹をなす科目を各専門共通の基礎科目として開講し、ブツダと親鸞の基本思想を通して人間について考える「人間学」、高校までの学びから大学の学びへの転換と専門への接続をはかる「導入科目」、およびグローバル化時代の共通言語である英語をはじめ、様々な言語を学びながら文化の多様性に触れる「外国語」を置く。
<学科専門科目>

各学科、コースごとの専門的な学びを修得するための科目を学科専門科目として開講し、専門の体系的理解を促す講義や、知的探究心を呼び起こす実践研究等の科目を置くとともに、自らの課題を専門分野の視点から問い直し、発表と議論を通して研究を深める演習の科目を置き、これらの学びをふまえて卒業研究の作成を目指す。

<現代総合科目>

専門分野の補完や幅広い現代教養（キャリア形成・自然生命・歴史文化）のための科目を現代総合科目として開講し、各自の興味や関心にあわせ、3つの系ごとに自由に科目を選択して学習する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

①大学ホームページ

<https://www.otani.ac.jp/nyushi/nab3mq0000081iqb.html>

②2022年度入学試験要項／入試資料 *大学ホームページ「資料請求フォーム」より請求可能

<https://www.otani.ac.jp/nab3mq000000khsr.html>)

(概要)

社会学部の「教育目標（人物養成上の目的）」を達成するため、求める人物像や高校までに身に付けておいてほしい力を「入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」として定めている。アドミッション・ポリシーは、具体的に4つ（AP1～4）の項目を定め、それらを各入学（試験）制度と対応させることにより、求める能力を入試制度ごとに明確にしている。さらに、社会学部各学科においては、教育目標（人物養成上の目的）とアドミッション・ポリシーに基づいて、「学科の目標・学科が求める学生像」をそれぞれ定め、各学科がどのような人物を養成したいか、またそういった人物を養成するため、どのような能力や関心をもつ学生を求めるのかを具体的に明らかにしている。

社会学部では、教育目標を達成するために、自らの「成すべき本務を遂行」し、「自ら純真なる人格を形成」し、「互いに敬い合いながら生きることのできる世界を構築」する気概に溢れた、次のような人を求め、受入れる。

(AP1) 高等学校の教育課程の教科・科目の修得によって身につけた基礎的知識を用いた観察力や分析力をもつ人〔知識・理解〕

(AP2) 様々な社会問題に関心をもち、その解決のための探究心を有する人〔関心・意欲〕

(AP3) 地域社会で生きる人に対する知的好奇心が旺盛で、豊かなコミュニケーション力と幅広い実践力を身につけたい人〔技能・表現〕

(AP4) 地域への愛にあふれ、積極的に貢献しようとする人〔態度〕

学部等名 教育学部
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq000005tods.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献することを目的としている。目的を達成するため、人物の養成に関する目的と教育研究上の目的を、学部・学科ごとに定めている。教育学部は以下のとおりである。</p> <p>教育学部は、純真な人格形成を目指す高い教職意識と責任感を持ち、社会的常識や対人関係能力を備えて子どもたちの声に耳を傾けることのできる、慈育の精神に富んだ専門職業人の養成をめざす。</p> <p>教育学科初等教育コースは、仏教精神に基づく宗教的情操を身につけ、インクルーシブ教育など社会的な要請に応えようとする責任感を持ち、慈しみの心を持って他者と接することのできる、子どもの「育ち」を担う教育者の養成をめざす。幼児教育コースは、仏教精神に基づく宗教的情操を身につけ、インクルーシブ教育など社会的な要請に応えようとする責任感を持ち、慈しみの心を持って他者と接することのできる、子どもの「育ち」を担う保育者の養成をめざす。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000008buxg.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学では、学部ごとに卒業時に学生が身につけるべき能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定単位の修得をもって教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。教育学部における卒業時に身につけておくべき能力は以下のとおりである。</p> <p>(DP1) 子どもと関わることを通して、人間存在への慈しみや、教育愛を持つことができる。 〔態度〕</p> <p>(DP2) 教育に関する指導法の習得を通して、他者とコミュニケーションを取ることができ、円滑な人間関係を形成することができる。〔技能・表現〕</p> <p>(DP3) 教育に関わる人間・社会・自然環境について、幅広い知識・知見を身につけている。 〔知識・理解〕</p> <p>(DP4) 教育を中心とする社会・自然の諸問題に関して、課題を設定しようとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕</p> <p>(DP5) 人文・社会諸科学の幅広い知識を用いて、教育に関わる諸問題の諸相を分析することができる。〔思考・判断〕</p> <p>(DP6) 教育の諸問題への理解を深めながら、より良い社会形成へと主体的に取り組むことができる。〔態度〕</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000008buxg.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下に示す3つの科目群（共通基礎、学科専門、現代総合）を基盤とした教育課程をもうけ、各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎および○で示す。（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習等適切な方法により実施する。（自由科目は、現代総合科目および自己選択科目をいう。）</p> <p><共通基礎科目></p> <p>教育目標を達成するための根幹をなす科目を各専門共通の基礎科目として開講し、ブツダと親鸞の基本思想を通して人間について考える「人間学」、高校までの学びから大学の学びへの転換と専門への接続をはかる「導入科目」、およびグローバル化時代の共通言語である英語をはじめ、様々な言語を学びながら文化の多様性に触れる「外国語」を置く。</p>

<学科専門科目>

各学科、コースごとの専門的な学びを修得するための科目を学科専門科目として開講し、専門の体系的理解を促す講義や、知的探究心を呼び起こす実践研究等の科目を置くとともに、自らの課題を専門分野の視点から問い直し、発表と議論を通して研究を深める演習の科目を置き、これらの学びをふまえて卒業研究の作成を目指す。

<現代総合科目>

専門分野の補完や幅広い現代教養（キャリア形成・自然生命・歴史文化）のための科目を現代総合科目として開講し、各自の興味や関心にあわせ、3つの系ごとに自由に科目を選択して学習する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法）

①大学ホームページ

<https://www.otani.ac.jp/nyushi/nab3mq0000081iqb.html>

②2022年度入学試験要項/入試資料 *大学ホームページ「資料請求フォーム」より請求可能

<https://www.otani.ac.jp/nab3mq000000khsr.html>

(概要)

教育学部の「教育目標（人物養成上の目的）」を達成するため、求める人物像や高校までに身に付けておいてほしい力を「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」として定めている。アドミッション・ポリシーは、具体的に4つ（AP1～4）の項目を定め、それらを各入学（試験）制度と対応させることにより、求める能力を入試制度ごとに明確にしている。さらに、教育学部各コースにおいては、教育目標（人物養成上の目的）とアドミッション・ポリシーに基づいて、「学科の目標・コースが求める学生像」をそれぞれ定め、各コースがどのような人物を養成したいか、またそういった人物を養成するため、どのような能力や関心をもつ学生を求めるのかを具体的に明らかにしている。

教育学部では、次のような人を求め、受け入れる。

- (AP1) 高等学校の国語・数学等を着実に習得し、読解力・表現力・推理力等の相当の学力を有する人〔知識・理解〕
- (AP2) 教育・保育問題に関心を持ち、教育・保育に関する自分の意見を確立できる人〔関心・意欲〕
- (AP3) 乳幼児・児童と積極的にかかわることができる、コミュニケーション能力を有する人〔技能・表現〕
- (AP4) 人間関係の重要性について認識し、よりよい人間関係を構築しようとする教育愛にあふれる人〔態度〕

<p>学部等名 国際学部 (21年度以降)</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000zuw-att/nab3mq000008bga5.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献することを目的としている。目的を達成するため、人物の養成に関する目的と教育研究上の目的を、学部・学科ごとに定めている。国際学部は以下のとおりである。</p> <p>国際学部は、グローバル社会において、建学の精神に基づいて自己のアイデンティティを確立し、多様な他者の存在に気づき、寄りそうことのできる人物の養成をめざす。</p> <p>国際文化学科は、欧米とアジア地域を研究対象とし、その文化事象を考究することで自己と他者理解に努め、さまざまな背景をもつ人びとに寄りそい、仏教的な「相互敬愛」を実現する人物の養成をめざす。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000008buxg.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学では、学部ごとに卒業時に学生が身につけるべき能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定単位の修得をもって教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。国際学部における卒業時に身につけておくべき能力は以下のとおりである。</p> <p>(DP1) 外国語を使用して、4技能(聞く、読む、話す、書く)を活用した十分なコミュニケーションができる。〔技能・表現〕</p> <p>(DP2) 日本語を使用して、正確に読解し、論理的に表現し、的確に議論することができる。〔技能・表現〕</p> <p>(DP3) 国際的視座にたつて、人間・社会・自然環境について、幅広い知識・知見を身につけている。〔知識・理解〕</p> <p>(DP4) 人文諸科学の幅広い知識を用いて事象を多角的に考察し、多文化共生のための問題解決策を提案できる。〔思考・判断〕</p> <p>(DP5) 文化的背景の異なる他者と自己への理解を深めながら、さまざまな課題を設定し、主体的に問題解決に取り組むことができる。〔態度〕</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000008buxg.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下に示す3つの科目群(共通基礎、学科専門、現代総合)を基盤とした教育課程をもうけ、各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎および○で示す。(◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている)教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習等適切な方法により実施する。(自由科目は、現代総合科目および自己選択科目をいう。)</p> <p><共通基礎科目></p> <p>教育目標を達成するための根幹をなす科目を各専門共通の基礎科目として開講し、ブツダと親鸞の基本思想を通して人間について考える「人間学」、高校までの学びから大学の学びへの転換と専門への接続をはかる「導入科目」、およびグローバル化時代の共通言語である英語をはじめ、様々な言語を学びながら文化の多様性に触れる「外国語」を置く。</p> <p><学科専門科目></p> <p>各学科、コースごとの専門的な学びを修得するための科目を学科専門科目として開講し、専門の体系的理解を促す講義や、知的探究心を呼び起こす実践研究等の科目を置くとともに、自らの課題を専門分野の視点から問い直し、発表と議論を通して研究を深める演習の科目を置き、これらの学びをふまえて卒業研究の作成を目指す。</p> <p><現代総合科目></p>

専門分野の補完や幅広い現代教養（キャリア形成・自然生命・歴史文化）のための科目を現代総合科目として開講し、各自の興味や関心にあわせ、3つの系ごとに自由に科目を選択して学習する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

①大学ホームページ

<https://www.otani.ac.jp/nyushi/nab3mq0000081iqb.html>

②2022年度入学試験要項/入試資料 *大学ホームページ「資料請求フォーム」より請求可能

<https://www.otani.ac.jp/nab3mq000000khsr.html>)

(概要)

国際学部の「教育目標（人物養成上の目的）」を達成するため、求める人物像や高校までに身に付けておいてほしい力を「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」として定めている。アドミッション・ポリシーは、具体的に4つ（AP1～4）の項目を定め、それらを各入学（試験）制度と対応させることにより、求める能力を入試制度ごとに明確にしている。さらに、国際学部国際文化学科においては、教育目標（人物養成上の目的）とアドミッション・ポリシーに基づいて、「学科の目標・学科が求める学生像」をそれぞれ定め、各学科がどのような人物を養成したいか、またそういった人物を養成するため、どのような能力や関心をもつ学生を求めるのかを具体的に明らかにしている。

国際学部では、次のような人を求め、受け入れる。

(AP1) 高等学校で履修する国語、地歴・公民、数学、外国語などについて、高等学校卒業相当の知識をもつ。〔知識・理解〕

(AP2) 国際的・文化的事象について資料をもとに考察し、自分の考えをまとめることができる。〔思考・判断〕

(AP3) 世界の文化、言語、歴史について明確な関心をもち、複数の外国語を学習する意欲と、異文化を理解し他者と共生しようとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕

(AP4) 日本語を使用して、自分の考えを的確に表現することができる。〔技能・表現〕

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm.html>

（「教育情報の公表」>教育研究上の基礎的な情報>大学の概要>教育研究組織）

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
文学部	—	28人	13人	7人	14人	0人	62人
社会学部	—	10人	7人	4人	0人	0人	21人
教育学部	—	11人	4人	3人	0人	0人	18人
国際学部	—	5人	5人	1人	0人	0人	11人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		266人					266人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：インターネットを通じて、本学ホームページおよび教員の業績データベースから検索、閲覧できるよう整備している 教員一覧（ https://www.otani.ac.jp/kyouin/index.html ）、 大谷大学教育研究業績検索システム （ https://gdb.otani.ac.jp/gdb/find/ ）					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2007年度に教務委員会にFD部会を設置し、全学レベルで取り組んでいる。FD部会は年4回程度開催し、以下の事項について審議及び推進している（教務委員会規程第3条第2号）。							
ア 教育内容及び授業方法改善のための具体案（各授業科目における「授業計画(シラバス)」の記載内容の確認を含む。）							
イ 授業評価アンケートの活用							
ウ FDに係る研究会及び研修会の実施							
エ FDに係る調査及び研究							
オ その他FDに関すること							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	318人	315人	99.1%	1,516人	1,671人	110.2%	—人	4人
社会学部	220人	211人	95.9%	880人	875人	99.4%	—人	0人
教育学部	130人	134人	103.1%	520人	529人	101.7%	—人	0人
国際学部	100人	103人	103.0%	100人	103人	103.0%	—人	0人
合計	768人	763人	99.3%	3,016人	3,178人	105.4%	—人	4人
(備考)								
2018年4月 社会学部、教育学部新設								
2021年4月 国際学部新設								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	713人 (100%)	21人 (3.0%)	595人 (83.5%)	97人 (13.6%)
合計	713人 (100%)	21人 (3.0%)	595人 (83.5%)	97人 (13.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) ・進学先: 大谷大学大学院など ・就職先: 京都市教育委員会、滋賀県教育委員会、京都府教育委員会、京都中央信用金庫、アラマークユニフォームサービスジャパン株式会社、株式会社マツモト、宗教法人真宗大谷派宗務所など				
(備考) 2018年4月 社会学部、教育学部新設のため卒業生なし 2021年4月 国際学部新設のため卒業生なし				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	854人 (100%)	652人 (76.3%)	88人 (10.3%)	114人 (13.3%)	0人 (0%)
合計	854人 (100%)	652人 (76.3%)	88人 (10.3%)	114人 (13.3%)	0人 (0%)
(備考) 2018年4月 社会学部、教育学部新設のため卒業生なし 2021年4月 国際学部新設のため卒業生なし					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
「授業種別(講義・演習等)」、「授業テーマ」、「授業概要」、「学習到達目標」、「身につく力(DPとの関連)」、「成績評価方法(課題に対するフィードバック方法含む)」、「教科書・参考書等」、「授業計画(各回の学習内容・授業方法・準備学習(予習・復習)・時間)」、「質問・相談の方法」、「担当者からの連絡」の項目から成る共通フォーマットのシラバスを全ての科目で利用しており、シラバスにおいて授業科目の授業内容や方法、計画を示している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
成績評価の客観的指標として GPA 制度を導入している。また、DP に定めた能力が卒業時に身につけているかを、学部・学科ごとに編成する教育課程における所定単位の修得をもって達成したもののみとしているが、本学の学びの集大成と位置付けている卒業論文・卒業研究におけるルーブリック評価や、学修行動調査によっても修得状況を明らかにしている。加えて、学修成果の評価の方針に沿って、DP に定める卒業時に身につけるべき能力の修得状況を段階的に評価している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	真宗学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)

	仏教学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	哲学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	歴史学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	文学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	国際文化学科 (20 年度以前)	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
文学部 (17 年度以前)	真宗学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	仏教学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	哲学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	社会学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	歴史学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	文学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	国際文化学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	人文情報学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	教育・心理学科	124 単位	有・無	年間 52 単位 (半期 26 単位)
社会学部	現代社会学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
	コミュニティデザイン学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
教育学部	教育学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
国際学部 (21 年度以降)	国際文化学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 (半期 24 単位)
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : https://www.otani.ac.jp/faculty/yokou.html (2021 『履修要項』 学部・大学院【2021 入学用】 pp. 113-114)		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : 【学修状況】 https://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq000007x736.pdf (2019 年度大谷大学第 4 回「学修行動調査」結果報告書) 【資格取得状況】 https://www.otani.ac.jp/study_support/nab3mq000003n4hk.html (卒業生の免許状取得・採用状況 (2019 年度))		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm.html>
(「教育情報の公表」>教育研究上の基礎的な情報>校地・校舎等の施設及び教育研究環境)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
2021 年度以降入学生					
文学部	・ 真宗学科 ・ 仏教学科 ・ 哲学科 ・ 歴史学科 ・ 文学科	840,000 円	250,000 円	100,000 円	施設費 1 年目 : 100,000 円 2 年目以降 : 300,000 円 ※休学中の在籍料は、年間 120,000 円
社会学部	・ 現代社会学科 ・ コミュニティデザイン学科	840,000 円	250,000 円	100,000 円	施設費 1 年目 : 100,000 円 2 年目以降 : 300,000 円 ※休学中の在籍料は、年

					間 120,000 円
教育学部	・教育学科	940,000 円	250,000 円	100,000 円	施設費 1 年目：100,000 円 2 年目以降：340,000 円 ※休学中の在籍料は、年間 120,000 円
国際学部	・国際文化学科	840,000 円	250,000 円	100,000 円	2021 年度新設学部 施設費 1 年目：100,000 円 2 年目以降：300,000 円 ※休学中の在籍料は、年間 120,000 円
2020 年度以前入学生					
文学部	・真宗学科 ・仏教学科 ・哲学科 ・歴史学科 ・文学科 ・国際文化学科	840,000 円	250,000 円	100,000 円	施設費 1 年目：100,000 円 2 年目以降：300,000 円 ※休学中の在籍料は、年間 120,000 円
社会学部	・現代社会学科 ・コミュニティデザイン学科	840,000 円	250,000 円	100,000 円	施設費 1 年目：100,000 円 2 年目以降：300,000 円 ※休学中の在籍料は、年間 120,000 円
教育学部	・教育学科	940,000 円	250,000 円	100,000 円	施設費 1 年目：100,000 円 2 年目以降：340,000 円 ※休学中の在籍料は、年間 120,000 円
2017 年度以前入学生					
文学部	・真宗学科 ・仏教学科 ・哲学科 ・社会学科 ・歴史学科 ・文学科 ・国際文化学科	795,000 円	200,000 円	100,000 円	施設費 ※休学中の在籍料は、年間 120,000 円
	・人文情報学科	795,000 円	200,000 円	350,000 円	施設費 ※休学中の在籍料は、年間 120,000 円
	・教育・心理学科	860,000 円	200,000 円	220,000 円	施設費 ※休学中の在籍料は、年間 120,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>大学での学びを支援するために、次の教育施設を整備している。</p> <p>【学習支援室（ラーニング・スクエア）】 英語・日本語の読み・書きを中心としたリメディアル教育の拠点として「学習支援室」を設置している。「学習支援室」では、予約不要で学生が気軽に訪問し個別指導を受けられるよう、平日 10：30～17：30 まで、常時 3～4 名の学習支援アドバイザーを常駐させている。</p> <p>【文藝塾】</p>

社会のさまざまな場面で必要となる、高度で応用的な文章作成能力を身につけることができる場として設置している。芸術的・技術的な文章力の向上を目指したい学生のサポートを行っており、正規授業の「文藝塾講義」、「文藝塾演習」を開講して、学生一人ひとりの目的に応じた学びの場を用意している。

【教職支援センター】

中等科・初等科の教員免許状取得および博物館学課程等の資格取得のための単位修得方法や履修計画に関する相談、教職に関する各種説明会の案内、介護等体験や教育実習などに向けた事前・事後指導を行っているほか、センター内に教職経験の豊かな教職アドバイザーが常駐し、教職に関する相談を受け付けている。また、小学校・中学校・高等学校の教科書や参考書、指導要領、教員採用試験に向けたハンドブックや過去問題、参考書などを設置した資料室を設け、学生に学びの場を提供している。

【実習支援センター】

社会福祉士国家試験受験資格、幼稚園教諭免許状、保育士資格の取得に必要な実習に係る支援を行っている。

実習についての事前学習を行うことができるよう、実習先である社会福祉施設や幼稚園、保育所等の資料や学習用書籍を整え、実習に関する質問等にも応えている。

【語学学習支援室 (GLOBAL SQUARE)】

留学支援として、学術交流協定校に関する情報提供や留学前オリエンテーションの開催などきめ細やかなサポートを行っている。また、本学助教や非常勤講師による各外国語勉強会を開催するほか、外国人留学生在在室し外国語で交流できる時間帯を設けるなど、語学学習の機会を提供するとともに、学生たちが日常的に国際的視野を身に着ける環境を整えている。なお、現在は新型コロナウイルス感染拡大予防策の観点から、一部の取組を中止している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

就職支援のみならず在学中のキャリア支援を行う部署としてキャリアセンターを設置している。各学年、段階に応じた支援企画を行っている。第1学年では新入生全員を対象に入学段階での自分自身を客観的に確認するアセスメントを実施し、結果を基に大学生活の過ごし方、目標を定め大学生活をスタートさせている。進級時には各学年に応じたキャリアガイダンスを開催し振りかえりと、目標設定を行っている。特に第3学年進級時には入学時に行ったアセスメントに対応した上級生版のアセスメントを実施し、成長や変化を確認する取り組みを行っている。結果は就職活動に必要な履歴書作成のための面談にも活用している。第3学年以降は、就職希望者には各種就職ガイダンスを、進学希望者には大学院進学ガイダンスなどニーズに合わせたガイダンスを開催している。他、資格取得のための講習や就職試験対策講座などを開講している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健室、学生相談室では心身に関する支援を行っている。
保健室では、実り豊かな大学生活を送れるように健康面から支援している。
スタッフは、産業医兼校医1名、精神科校医1名、保健師1名、看護師1名である。
自身の健康状態を知るために行う健康診断の実施やその結果をもとに日常生活の改善点を指導したり、必要に応じて精密検査を受診勧奨している。また、心身の健康に関する相談にも応じており、必要に応じて他部署や学生相談室と連携しながら対応を行っている。
また校内における保健衛生知識の普及啓発ステーションでもあるように、何種類かの健康管理に役立つ測定器の設置や、書籍、パンフレット類も整備している。
学生相談室では、精神科校医をはじめとする公認心理士等の専門家が常駐し、学生の心の健康に寄り添った相談活動を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F126310107485
学校名	大谷大学
設置者名	真宗大谷学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		298人	295人	320人
内 訳	第Ⅰ区分	171人	179人	
	第Ⅱ区分	84人	77人	
	第Ⅲ区分	43人	39人	
家計急変による支援対象者（年間）				12人
合計（年間）				332人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	17人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	53人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	53人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。